

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は平成27年に基本計画を策定し、認定を受けて以降、認定基本計画に基づき、「魅力あるまちなみづくり」と「にぎわいの創出」の2つの方針のもと、各事業に取り組んでいるところである。

本市の中心市街地の特徴として、北部の地域では、数多く残る歴史的建造物に観光客が集まり、こうした観光客の中には外国人観光客も数多く含まれている。増加を続ける外国人観光客は、前年比約15%の増加となっており、地域の特性を生かした歴史的建造物の保存整備を継続して実施し、魅力ある町並みの形成に努めてきたことによる効果が表れている状況となっている。

また、南部の地域では、川越駅、本川越駅、川越市駅の鉄道三駅周辺に商業施設が集積していることから、北部地域とは違い、買い物客による賑わいを見せている。この南部地域では、川越駅の東西両口側において駅利用者の利便性の向上や駅周辺での交通円滑化のための各種事業が計画されており「本市の玄関口」としての整備を進めるとともに、2020年の東京オリンピックにおいて本市で開催されるゴルフ競技に向けて整備を進めていく必要がある。

今年度は、賑わいに欠ける結節地域を中心にしてライトアップイベントが実施されるなど、新たな賑わいの創出が期待される。特に、本市の課題である夜の賑わいへの寄与が期待されるところである。また、南部地域の川越駅東西両口側にて計画されている事業のうち、川越駅東口側ではエレベーターやロータリー部の整備など各種改修が順次進められており、駅を利用する市民、来訪者、観光客の利便性の向上や交通の円滑化が図られ、賑わいの創出に寄与していくものと考えられる。

今後、東西両口の整備が進められる川越駅や西口が開設された本川越駅、本川越駅とのアクセスが向上した川越市駅の三駅利用者は、観光客の増加とともに増えていくことが想定されることから、これまでに中心市街地活性化協議会から意見としていただいているとおり、喜多院周辺等へ観光客を誘導する等、観光エリアの拡大を図る必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（中心市街地区域）	平成26年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	28,391人	28,531人
人口増減数	114人	172人
社会増減数	135人	181人
転入者数	2,295人	2,389人

※人口については、当該年度内の1月1日の人口です。人口増減数・社会増減数・転入者数については、当該年度内の1月1日までの1年間の変動数です。

2. 平成29年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地では、多くの事業が実施されてきており、特に川越駅周辺では新規事業が始

まるなど、活発な動きが見られているところである。こうした新たな事業のほか、継続して実施している事業が滞ることなく進められるように、国や県の支援の積極的な活用などをお願いしたい。

また、当協議会としては、分科会である「空き地・空き店舗に関するもの」と「川越駅西口のエリアマネジメントに関するもの」の2つが平成28年度に活動を始めて、今年度も継続して進められているところである。こうした分科会による具体的な活動が、中心市街地の活性化にどのように結びついていくのか、経過を見ていきたい。

そして、中心市街地には現在、保存整備が進められている旧川越織物市場など、歴史的資産や観光資源がまだ残されているかと思う。行政の取組と協議会活動とが連携することで、さらに活性化を進めていくことができれば良いかと思う。

今後、2020年の東京オリンピックの際には、川越市においてゴルフ競技が行われ、中心市街地には多くの人を訪れることが想定される。行政や川越商工会議所の取組の他、協議会としても中心市街地の活性化に向けた取組について、検討を行いたい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
回遊性の向上	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	91,882 人 (H26)	110,000 人 (H31)	101,119 人 (H29.5)	①	①
	観光客の立ち寄り観光 地点数	4.27 か所 (H25)	4.50 か所 (H31)	4.30 か所 (H29.5)	①	①
商業・サービス業の活性化	空き店舗数	74 店舗 (H24)	64 店舗 (H31)	73 店舗 (H29.12)	③	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）について

指標地点の平日・休日の平均は、101,119人となり、昨年同様、前年度の数値を上回って推移している。ただし、昨年は平日・休日ともに前年度より増加していたが、今年度は、前年度比で平日が5.0%の減少となっており、休日が12.1%増加する、といった結果となっている。

平日については、前年度比で減少しているが、北部地域や結節地域といった観光エリアでは増加しており、減少は南部地域に集中している。一方、休日については、継続して増加しており、ほぼすべての地点で増加する中で伸び率が高い地点は北部

地域と結節地域に多い状況となっている。

通行量について、北部地域における町並み整備による地域の魅力の向上やそうした観光エリアへ至る中央通りの整備による歩行環境の改善などの事業効果が表れていることに加え、他の事業も概ね予定どおり進んでいることから、目標達成は可能であると見込まれる。

(2) 観光客の立ち寄り観光地点数について

立ち寄り観光地点数は、4.30 か所で前年度と同数値となっており、基準値よりは上回っている状況となっている。本市の代表的な観光地点であり、9割以上の観光客が訪れる上位3地点（「蔵造りの町並み」、「菓子屋横丁」、「時の鐘」）に変わりはなく、菓子屋横丁と時の鐘の順位が入れ替わったものの、前年度とほぼ同様の状況である。

こうした中で、年々立ち寄り観光客が増加している氷川神社については、今年度も継続して増加しており、若い方を中心に注目を集めているイベントである「川越氷川神社縁結び風鈴」の認知度が高まることで継続して増加しているものと考えられる。

立ち寄り観光地点数について、観光客の増加が続く氷川神社から他地点への回遊を図るため、目的別の立ち寄りスポットを紹介するパンフレットを作成し、観光地点数の増加を目指しているところであり、関連する事業も概ね予定通りであることから、目標達成は可能であると見込まれる。

(3) 空き店舗数について

空き店舗数については、73店舗となり基準値及び前年度より空き店舗が減少する結果となった。各地域ごとの状況を見ると、北部地域と南北の間に位置する結節地域で空き店舗が減少し、南部地域では増加するといった状況であった。前年度は、空き店舗が取り壊されることでの減少が目立ったが、今年度はテナントの入れ替えによる空き店舗の解消や、長年空いていた店舗が改修され新規出店が行われたことによる解消など、地域の賑わいへと繋がっていくことが見込まれる。

空き店舗数は、今年度も継続して減少を続けており、基準値を下回る結果となるなど、空き店舗の解消に向けた取組の成果が表れてきているところである。今後も、引き続き関連事業に取り組んでいくことで、目標達成は可能と見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

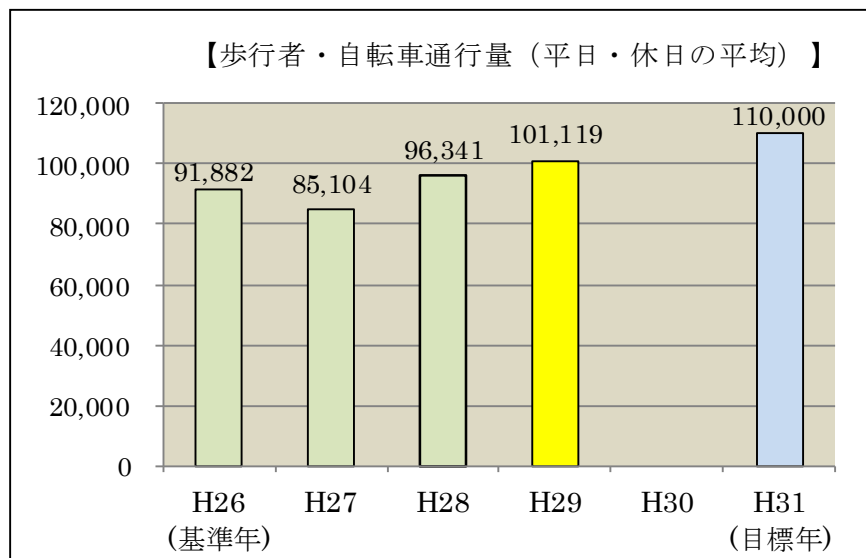
「空き店舗数」については、平成28年度のフォローアップにおいて、テナント募集を行っている店舗が埋まることで空き店舗数は減少しているものの、基本計画で取り組む事業効果はこれから発現していくものと考えられ、「取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく(③)」と見込んでいたところである。

だが、今年度はチャレンジショップ事業による卒業生が、中心市街地内に店舗併用住宅を構え開業を行うなど、事業効果が表れてきたことに加え、昨年度、協議会の中に組織された空き地・空き店舗に関する分科会との連携も進んでいることから、「取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる(①)」と評価を行った。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」※目標設定の考え方：基本計画 P56～P61 参照

●調査結果の推移



年	人
H26	91,882 (基準年値)
H27	85,104
H28	96,341
H29	101,119
H30	—
H31	110,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車の通行量について、毎年5月下旬の平日及び休日の8地点において午前10時から午後7時までの毎時00分から15分及び30分から45分の各15分間計測し、その数値を2倍し、1時間当たりの通行量を推計

※調査月：平成29年5月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内8地点の歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 5-2 川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設運営管理事業（川越市）

事業完了時期	平成27年度から【実施中】
事業概要	ウェスタ川越において、市民や近隣市町住民の芸術文化活動の拠点として、良質な鑑賞機会や発表の場の提供、市民の自主的な学習活動の支援、生涯学習の場と機会の提供、男女共同参画に関する各種講座や相談業務等を実施し、これらにより地域住民の活動・交流を促進して、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>ウェスタ川越は、川越駅西口の新たな拠点として知名度が増し、昨年以上に利用が増えるなど、事業による集客効果が高まっている。</p> <p>利用者数(平成29年度速報値)</p> <p>(1)文化芸術振興施設 272,576人</p> <p>(2)市民活動・生涯学習施設 120,850人</p> <p>(3)男女共同参画推進施設 28,431人</p>

②. 7-1 旧鶴川座保存活用事業（川越市、民間事業者、商店街等）

事業完了時期	平成 30 年度【未】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、活性化の拠点として再生し、この界隈に賑わいと活力の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	旧鶴川座利活用に向けて、今年度も継続して所有者・地元関係者・行政が協力し、実施主体や事業計画・整備方針の検討を行った。

③. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	市指定文化財である旧川越織物市場を復原するため、建物の解体調査を含めた部材修復設計を行った。また、旧川越織物市場を若手アーティストやクリエイターを対象とした文化創造インキュベーション施設として活用するため、施設管理候補者等の抽出と条件整理を実施し、必要となる人材や備品を把握するとともに、運営管理計画(案)の作成を行った。 当事業による事業効果としては、交流機能を有した施設として、多方面からの交流が期待でき、通行量の増加が見込まれる。

④. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（㈱まちづくり川越）

事業完了時期	平成 22 年度から【実施中】
事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	広場を含めた自主イベントは、今年度より企画数を減らし内容を精査することで充実を図った。参加者数の減少は川越まつりでの雨天や繁忙期のイベントでの天気の崩れが大きく響いた。バスに関しては介護車両の減少によりバス来場数、来場者数ともに減少した。 自主イベント企画数：110 企画(前年-48 企画) 自主イベント参加者数：82,528 人(前年-28,250 人) バス来場数(介護含む)：451 台(前年-21 台) バスによる来場者数：10,802 人(前年-605 人)

⑤. 4-7 伝統的建造物群保存地区保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 12 年度から【実施中】
事業概要	伝統的建造物群保存地区の保存整備を図るため、伝統的建造物の保存修理に対して費用の助成を行うとともに、伝統的な建造物の個別調査を実施し、具体的な修理方法の検討を行う。
事業効果及び進捗状況	本年度は、伝統的建造物5件の修理が行われ、魅力ある町並みの保存、整備が行われ、北部地域は観光客による賑わいを見せている。

⑥. 7-38 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの推進（川越市）

事業完了時期	平成 26 年度から【実施中】
事業概要	2020 年東京オリンピック競技大会のゴルフ競技が市内で開催予定となっていることから、ハード・ソフトの両面の整備により、「まちの顔」である中心市街地の魅力を高め、国内外からの観光客の誘客を図る。
事業効果及び進捗状況	昨年策定した「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた川越市基本方針」にある 8 つの取組のうち「川越ならではのおもてなし」を具体的に進めるため、8 月に「川越おもてなしプラン」を策定した。また、昨年引き続き、大会を契機とした市の活性化を図ることを目的として、食と音と灯りの融合や産業フェスタなどのイベントへ出展することにより、賑わいの創出に寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

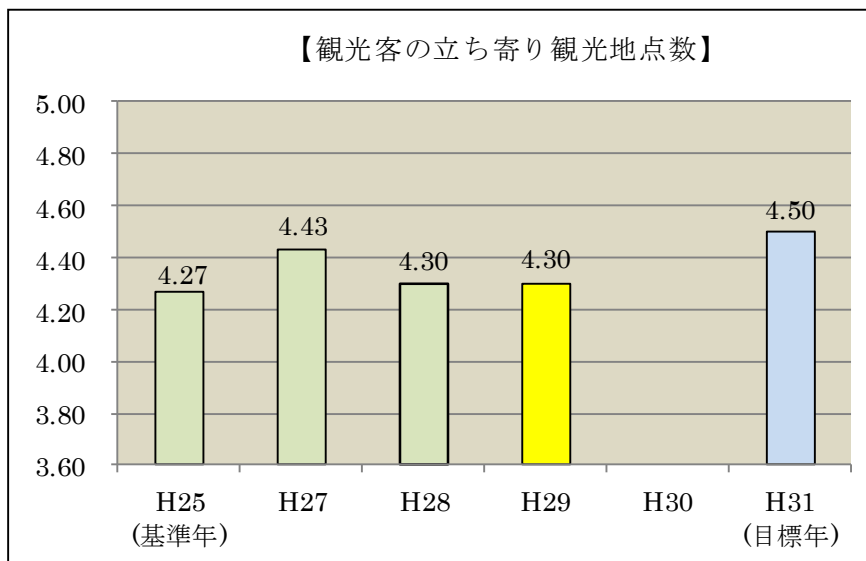
平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均については、前年度を約 5,000 人上回る結果となった。前年度は、平日・休日ともに増加したが、今年度については平日が約 4,100 人（5.0%）減少しており、休日は約 13,000 人（12.1%）の増加となっている。

平日に関しては、北部地域や結節地域といった観光エリアでは増加しており、減少は南部地域に集中している。減少要因としては、減少数、割合がそれほど大きくなく、南部地域に集中していることから、天候が曇りであったことにより、近隣から南部商業エリアへの買い物が控えられたものと考えられる。休日に関しては、ほぼすべての地点で増加しており、特に北部地域と結節地域にある計測地点での伸び率が高いことから、継続して観光客が増加していることによるものと考えられる。平日・休日ともに観光エリアでは、前年度よりも通行量が増加しており、賑わいが創出されているところである。

今後は、基本計画に掲載された各事業について、引き続きそれぞれの実施主体と連携を図りながら、事業を進めていきたい。そして、中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行いながら、事業の進捗状況に応じて、基本計画への事業の追加や修正等の見直しを行っていく。加えて、通行量の増加のため、各観光スポットへの回遊性を高めるための施策やそこへ至る動線の整備などを進めていきたい。

「観光客の立ち寄り観光地点数」 ※目標設定の考え方：基本計画 P61～P64 参照

●調査結果の推移



年	箇所
H25	4.27 (基準年値)
H27	4.43
H28	4.30
H29	4.30
H30	—
H31	4.50 (目標値)

※調査方法：観光アンケート調査（観光客への聴き取り調査）

※調査月：毎年1月から12月の各月実施、翌年4月とりまとめ

※調査主体：川越市

※調査対象：観光客

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 7-1 旧鶴川座保存活用事業（川越市、民間事業者、商店街等）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、活性化の拠点として再生し、この界隈に賑わいと活力の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	旧鶴川座利活用に向けて、今年度も継続して所有者・地元関係者・行政が協力し、実施主体や事業計画・整備方針の検討を行った。

②. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	市指定文化財である旧川越織物市場を復原するため、建物の解体調査を含めた部材修復設計を行った。また、旧川越織物市場を若手アーティストやクリエイターを対象とした文化創造インキュベーション施設として活用するため、施設管理候補者等の抽出と条件整理を実施し、必要となる人材や備品を把握するとともに、運営管理計画(案)の作成を行った。 当事業による事業効果としては、交流機能を有した施設として、多方面からの交流が期待でき、立ち寄る来訪者の増加が見込まれる。

③. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（株まちづくり川越）

事業完了時期	平成 22 年度から【実施中】
事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	広場を含めた自主イベントは、今年度より企画数を減らし内容を精査することで充実を図った。参加者数の減少は川越まつりでの雨天や繁忙期のイベントでの天気の崩れが大きく響いた。バスに関しては介護車両の減少によりバス来場数、来場者数ともに減少した。 自主イベント企画数：110 企画(前年-48 企画) 自主イベント参加者数：82,528 人(前年-28,250 人) バス来場数(介護含む)：451 台(前年-21 台) バスによる来場者数：10,802 人(前年-605 人)

④. 4-8 歴史的地区環境整備街路（立門前線）（川越市）

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	歴史的な建造物の町並みが続く地区において、町並みとの調和がとれ、景観に配慮した道路整備を行うことによって、地域の魅力の向上や居住環境を高めるとともに、観光客の回遊性を高める。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度に実施した道路予備設計の成果に基づき道路詳細設計を実施するとともに、地元自治会、地元商店会、関係機関などと事業推進のための打ち合わせを実施した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

立ち寄り観光地点数については、前年度と同数値である 4.30 か所となった。本市の観光エリアに位置する代表的な観光地点であり、観光客の 90%以上が訪れる「蔵造りの町並み」、「菓子屋横丁」、「時の鐘」の上位 3 地点に変わりはなく、菓子屋横丁と時の鐘の順位が入れ替わったものの、前年度とほぼ同様の状況である。

菓子屋横丁は、一時、火災により観光客数が減少したものの、町並み景観に配慮した店舗の再建が行われたことで、観光客数が戻ってきている状況である。

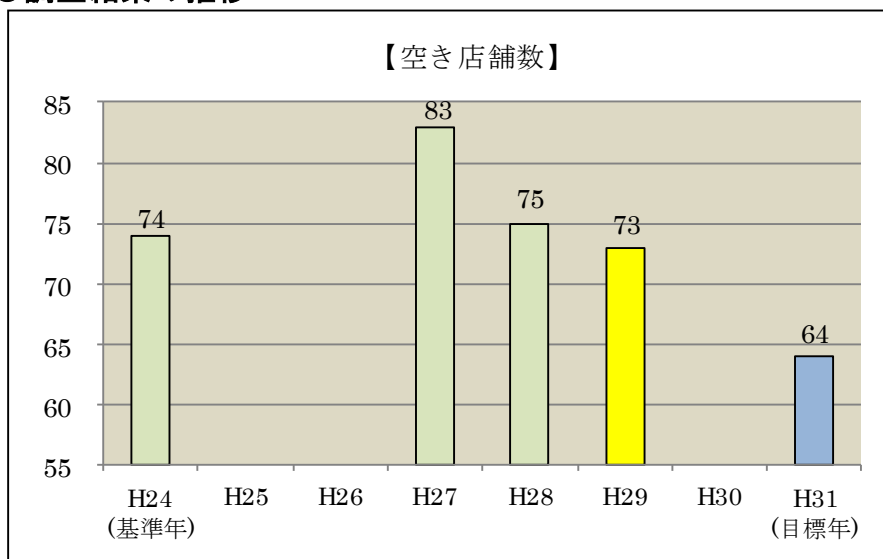
年々立ち寄り観光客が増加しており、今年度も継続して増加した氷川神社は、若い方を中心に注目を集めているイベントで、今年で 3 年目の実施となる「川越氷川神社縁結び風鈴」が定着しつつあることで増加しているところである。今後も認知度が高まることでさらに観光客が増えると思われる。

指標に関連する各事業が進められる中で、立ち寄り観光客が増えている氷川神社から他の観光スポットへの回遊を図るため、目的別の立ち寄りスポットを紹介するパンフレットを作成し、立ち寄り観光地点数の増加を目指しているところである。

今後は、基本計画に掲載された各事業について、引き続きそれぞれの実施主体と連携を図りながら、事業を進めていきたい。そして、中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行いながら、事業の進捗状況に応じて、基本計画への事業の追加や修正等の見直しを行っていく。関連するハード事業が進められていることから、そうした地点と既存の観光地点との連携を考えていく必要がある。

「空き店舗数」※目標設定の考え方：基本計画 P64～P66 参照

●調査結果の推移



年	店舗
H24	74 (基準年値)
H25	—
H26	—
H27	83
H28	75
H29	73
H30	—
H31	64 (目標値)

※調査方法：現況調査

※調査月：平成 29 年 12 月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	市指定文化財である旧川越織物市場を復原するため、建物の解体調査を含めた部材修復設計を行った。また、旧川越織物市場を若手アーティストやクリエイターを対象とした文化創造インキュベーション施設として活用するため、施設管理候補者等の抽出と条件整理を実施し、必要となる人材や備品を把握するとともに、運営管理計画(案)の作成を行った。 当事業による事業効果としては、交流機能と文化創造インキュベーション機能の導入により、入居者が一定期間経過後に市内の空き店舗に入り、独立することで空き店舗の解消が見込まれる。

②. 7-2 チャレンジショップ事業（株まちづくり川越）

事業完了時期	平成 25 年度から【実施中】
事業概要	中心市街地商店街の空き店舗を借り上げて、チャレンジショップとして出店を希望する新規開業者等に貸し出し、経営指導等を行い、独立開業を支援していく。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度の実績は、チャレンジショップへ4件の出店があった。 そして、チャレンジショップ卒業生の1名が、中心市街地内に店舗併用住宅を構え新規出店を行った。

③. 7-11 空き店舗情報登録制度（川越市）

④. 7-12 空き店舗対策事業（川越市）

事業完了時期	③平成 24 年度から【実施中】 ④平成 25 年度から【実施中】
事業概要	空き店舗の情報収集・情報提供を行う空き店舗情報登録制度により登録された空き店舗を利用した事業に関して、店舗改修費や賃借料を補助することにより、中心市街地に存在する空き店舗の減少を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度の空き店舗情報登録制度では、中心市街地内 8 件の空き店舗情報の提供を行った。 また、空き店舗対策事業では、中心市街地の区域内で 3 件、また、区域外になるが区域の沿道において 1 件の利用があった。

⑤. 7-13 空き地・空き店舗活用支援事業（㈱まちづくり川越）

⑥. 7-14 テナントミックス事業（㈱まちづくり川越）

事業完了時期	平成 21 年度から【実施中】
事業概要	⑤空き地・空き店舗の情報収集・提供を行い、必要に応じて、業種・業態を考慮した店舗誘致に向けた調整も併せて行う。 ⑥商店街内の空き店舗を利用した魅力的な店舗の展開、個店の業種構成の見直し、不足業種や魅力的な店舗の空き店舗への誘致等を行う。
事業効果及び進捗状況	両事業については、中心市街地活性化協議会の分科会の中で実施しており、平成 29 年度は、中心市街地内歴史的地域での出店を望む事業者と所有者の調整を行ったが、出店には至らなかった。

⑦. 7-15 経営力向上・創業等支援（川越商工会議所、パートナー機関）

事業完了時期	平成 20 年度から【実施中】
事業概要	川越商工会議所のネットワークを活用し、様々な分野のパートナー機関と連携して、中小企業者の経営力向上、新事業展開、事業承継等の課題解決に向けた支援を行う。また、創業希望者を対象とした研修等を実施する。
事業効果及び進捗状況	・高度な経営課題を抱える事業者に向け、専門家による無料相談・派遣を実施した。相談件数累計 42 件（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月） ・創業希望者を対象に、創業スクールを開催した。 基礎講座【夜間】平成 29 年 9 月 6 日、7 日に実施 受講者 17 名 【1 日】平成 29 年 9 月 10 日に実施 受講者 31 名 実践講座 平成 29 年 9 月 16 日、23 日、10 月 1 日 受講者 14 名 ビジネスプラン発表会 平成 29 年 10 月 21 日 受講者 14 名 創業セミナー 平成 30 年 3 月 14 日 受講者 17 名、 3 月 21 日 受講者 20 名

⑧. 7-16 若手人材育成事業（川越商工会議所、関係研修機関）

事業完了時期	平成 20 年度から【実施中】
事業概要	若手経営者・商業主等を対象に、時代の変化や消費者等のニーズにあった商業経営のあり方等について、研究会・勉強会を実施・支援し、後継者となる若手人材の育成を図る。
事業効果及び進捗状況	後継者となりうる方を対象にして、引き継ぎの際の心構え等の解説などを行うセミナーを実施した。 ・事業承継セミナー 平成 29 年 7 月 24 日に実施 受講者 7 名

●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗数については、前年度の75店舗から73店舗へと2店舗、空き店舗が減少し、基準年を下回る結果となった。地域別に見ると観光エリアである北部地域と、北部と南部の間に位置する結節地域では空き店舗が減少しており、商業・業務エリアである南部地域では、空き店舗が増加している。

空き店舗の減少に関しては、テナント募集を行っていた店舗が埋まるなどテナントの入れ替えによるケースや長年空いていた店舗が改修され新規出店が行われるケースなど、今後の地域の賑わいへと繋がっていくことが見込まれる解消が多かった。

また、南部地域では空き店舗が増えているが、商店街の縁辺部ではなく、すでにテナント募集の案内が出されており、地域の特徴として買い物客で賑わう地域であることから、長期間空き店舗の状態が続くことはないものと考えられる。

今後は、基本計画に掲載された各事業について、引き続きそれぞれの実施主体と連携を図りながら、事業を進めていきたい。特に中心市街地活性化協議会の分科会との連携を深めていくことが必要だと考えられる。

中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行いながら、事業の進捗状況に応じて、基本計画への事業の追加や修正等の見直しを行っていくほか、関連事業に継続して取り組むことで、目標達成は可能と見込まれる。